

京の博物館

目次

巻頭言……………	1	トピックス……………	6
おこしやす		京のかるチャーすぽと「ひと・もの・わが館自慢」…	8
・ 中信美術館……………	2	美術館・博物館と私……………	11
・ 財団法人 藤井斉成会 有鄰館…	4	ティータイム……………	12

関西から

文化力
POWER OF CULTURE

巻頭言 大英博物館の思い出

天江 喜七郎

(国立京都国際会館館長)



先日、大阪中之島の国立国際美術館で行われている「ルーヴル美術館展 美の宮殿の子供たち」を見る機会があった。すでに入場者は10万人を超え、高い評価を得ている。数多あるルーヴルの所蔵品の中で「子供」をテーマにした彫刻や絵画の逸品を集めて展示したものだが、そこには古代エジプト王ツタンカーメンの少年像あり聖母マリアに抱かれたイエスキリストの絵画や彫像ありで、子供たちのさまざまな姿が描かれている。このようにテーマを絞り込んだ展示会は、これまでの「大英博物館展」や「エルミタージュ秘宝展」のような幅広い展示会と異なり、キュレーターの遊び心が伺えて面白い。我が国における博物館や美術館の新たな試みとして今後定着していくのではないかと思います。

さて、私が初めて外国の博物館を見学したのは1967年夏のこと、ロンドンの大英博物館だった。ローマの神殿を思わせるような巨大な円柱が並び立つ正面玄関。石畳の階段を上がって中に入ると、そこには多くの観光客に交じって英国の小学生が先生に引率されて見学に来ていた。驚いたことに、博物館の入場料は外国人の私を含めて一切無料だ。私はそこに七つの海を征服した大英帝国の富の力を感じた。しかし、「入場無料」がエジプト室の一部を除き今日に至るまで維持されているのは、単に英国の経済力だけでは説明がつかない。なぜなら英国経済はその後数度に亘って苦難を強いられているからである。ではなぜ入場料を取らないのだろうか。私はそこに英国という国家の品格を見る思いがした。すなわち、大英博物館は過去の帝国の栄光を誇示するためだけにあるのではなく、展示物を通して多くの若者の知的関心を引き起

し、一般市民に社会教育の場を提供する責務を感じているから入場料を取らないのではないかと。

大英博物館との関係で私の頭に浮かぶ人物は、カール・マルクス(1818-1883)とアーサー・ウェイリー(1889-1966)の二人である。

ドイツ人の経済学者で革命家のカール・マルクスは19世紀中葉ロンドンに移住、ソーホー地区の貧民街に住みながら大英博物館の図書館に通い、1865年末までには膨大な量の「資本論」を書き上げた。それだけではなく、マルクスは「資本論」執筆以前に国家論、文化史、女性史、インド史、中世史など幅広い分野の研究を行い、これを「ロンドン・ノート」24冊に記している。他方、東洋学者として著名なアーサー・ウェイリーは、ケンブリッジ大学を卒業後大英博物館東洋学研究室に就職し、独学で中国語、日本語を習得、「源氏物語」の翻訳を手掛け、1921年から1933年にかけて「Tale of Genji」(全6巻)を出版した。このようにマルクスもウェイリーも大英博物館の恩恵を受けており、仮にこの博物館がなかったならば、資本論もTale of Genjiも生まれなかったに違いない。

博物館は知識の宝庫である。それは書籍を通して得られる知識とは異なり、実物を眼で見、手にとって感じることで得られる知識だ。博物館の学芸員が大学の研究者や市井の「数寄者」と一緒になってその知識を分かち合う時、社会にとって博物館の存在は一層大きなものとなる。

おこしやす

建物もアートな美術館

中信美術館

御所の西，京都府庁の正門から100メートル西に今年2月，地元のかたがたに気軽に美術文化に親しんでいただこうと「中信美術館」を開館しました。

みなさんもよくご存知のように，平成13年に京都市役所前中信御池ビル2階部分に「中信御池ギャラリー」を開設し，京都中央信用金庫ならびに財団法人中信美術奨励基金が所蔵している美術作品をもとに年7～8回程度企画展を開催し，京都府市民の皆さんをはじめ多くのかたがたにお楽しみいただいております。

この美術館は，そうした活動を一步進めるため同ギャラリーを閉館し，より多くのかたがたに美術に親しんでいただこうと開館しました。

南欧風の建物の探索も楽しみのひとつ …

丸みを帯びたライト・フレッシュ（うすい橙色）の壁面，屋根は銅版葺の瀟洒な南欧風の外観をもつ洋館。古いたたずまいが残る町並みに溶け込むように建っています。中信美術館は，建物も鑑賞対象の一つといえます。

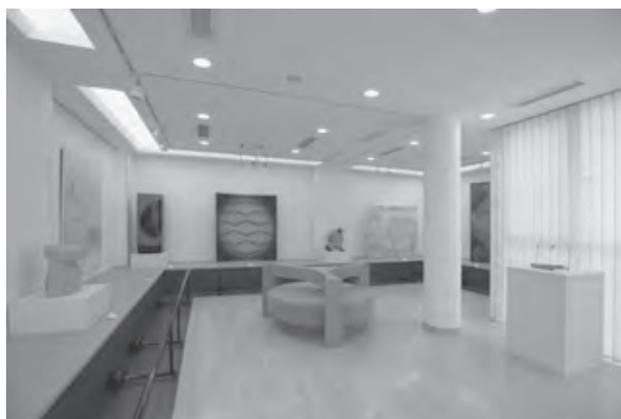
たとえば，渦巻きの連鎖をモチーフにデザインされた門扉を入り，階段をあがると，左手が入口。正面には花や虫を配したアール・ヌーヴォー風のイタリア製の鉄扉が印象的。ドアを開けて，スリッパに履き替えて，ゆっくりと鑑賞いただきます。

エントランスホールを抜けて中庭に出ると，地中海の遺跡を髣髴させるような列柱から空がのぞく開放的な空間に出会います。1階奥は，イスを並べるとギャラリートークやミニコンサートもできる展示スペース。このほか1階には，坪庭に面したにじり口のある本格的な茶室があります。

中庭から明るい光が入る吹き抜け階段を上がり2階展示室



南欧風の外観



ゆったりとした気分で鑑賞できる展示室

花や虫がデザインされた扉



列柱が印象的な中庭

へ。2階には真ん中の廊下を隔てて南北に二つの展示室があります。小品をゆったり鑑賞いただく北展示室。ぜひ、一度アートなかたちのソファに腰掛けて作品を鑑賞してみてください。

南展示室は、南半分が吹き抜けになっている現代的な展示空間。大きな作品や立体作品がよく似合います。

3階には、談話室も設置しています。

秋には、全作未発表作品の「石本正展」開催

10月20日から2カ月にわたり、京都中央信用金庫創立70周年を記念して、また日本画家・石本正画伯の画業70年を記念して、故郷である浜田市立石正^{せきしょう}美術館にご協力いただき「石本正展」を開催します。

石本画伯は「絵を描くのは遊び。楽しくて仕方がない。描きたいものが次から次へと湧き出てくる」が口ぐせです。なににも囚われない「石本正の絵の世界」を、画伯の画業の核となった京都でみなさまがたに感じていただきたいと思い企画しました。

石本画伯は、1920年（大正9）、鳥根県那賀郡岡見村（現

三隅町岡見）のお生まれ。1940年（昭和15）に京都市立絵画専門学校（現京都市立芸術大学）に入学。復員後、第3回日展に「三人の少女」が初入選された後2年連続入選したものの、1950年より活動の場を創造美術に求め、第3回創造美術展で「五条坂」・「踊り子」が入選。1964年からしばしばイタリアに出かけられ、ロマネスクに傾倒。中世イタリアを取材した作品を多く発表されています。また、1971年第3回日本芸術大賞、第21回芸術選奨文部大臣賞を受賞されましたが、以後全ての賞を辞退。すぐれた表現力はいまも多くの作家に影響を与えつづけています。

本展では、花・女性像などの新作のほか、このほどアトリエで発見された30年～50年前に描かれた風景画や人物画、デッサン50点を前期、後期に分けて初公開します。88歳の今も「描くことが好きで好きでたまらない石本正の世界」をぜひご覧ください。

京都中央信用金庫創立70周年記念 画業70年記念「石本 正展」

会 期 平成21年10月20日(火)～12月19日(土)

《前期》10月20日(火)～11月14日(土)

《後期》11月17日(火)～12月19日(土)

日・月休館。

11/15(日)～16(月)は作品入替えのため休館。

10：00～17：00（入館は16時45分まで）

所 在 地 〒602-8048

京都市上京区下立売通油小路東入西大路町
136番3(京都府庁正門西約100メートル)
TEL (075)417-2323

交 通 地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車……徒歩10分
市バス「堀川下立売」下車……徒歩 2分

料 金 無料

M A P



財団法人 藤井齊成会 有鄰館

理事長・館長 藤井 善嗣

有鄰館の沿革と概要

東に東山連峰を望み、前には、静かに流れる疎水に面し、当時の新聞に「京にそびゆる北京城の大塔」との見出しで、大正十五年（一九二六）十月に登場、屋上には、中国古材の朱塗りの八角堂を載せ、乾隆年製の黄釉瓦三万六千枚で葺く中国風の建物が有鄰館第一館です。

以後、八十数年風雪に耐え、建設当時の姿そのままということでは、我が国で最古の私立美術館です。

設立者は、当時、政財界に活躍した近江商人の血をひく、滋賀県五個荘出身の藤井善助翁で、十七才にして、上海の東亜同文書院大学に学び、帰国後、三十五才で衆議院議員となり、この時に出会った犬養毅翁の薫陶が、中国文化への認識を深めることになり、辛亥革命後欧米に流出する中国民族の文物を、我が国にとどめようと考えたのです。更に、我が国の文化との血のつながる祖先文化を収集し、これを公開展示する美術館の設立を想いたったのです。そして、今後、同じ



有鄰館全景

様な考えの人が増えることを願い、それを館名としたのです。

「徳は孤ならず、必ず隣あり」の、論語より名付けられ、この徳の一つは、海外流出を防ぐこと、もう一つの徳は、一般に公開し、人心を美化することであり、中国との善隣と友好を念じると共に共鳴者の現れることを願ったのです。

有鄰館第一館は、武田五一博士の設計で、昭和六十年六月、京都市登録有形文化財となっています。

第二館は、明治期のフランス人の設計によるルネッサンス風の建築で、随所にアール・ヌーボ様式がうかがえます。収蔵庫と共に、国の登録有形文化財になっています。この館では、藤原時代の木彫仏をはじめ、日本の美術を、建物と共に鑑賞していただいています。

収蔵の中国美術の見どころ

殷代より清代に至る約四千年間に生み出された芸術性の高い中国の文物は、あらゆる面で、我が国文化の父であり、母であります。それ故、設立者は、「同種同文の我が国への移入こそが自分の使命の様に思える。」と語っています。

有鄰館の収蔵品より見た特長は、「居ながらにして中国を肌で感ぜられる」です。

中国の歴史上の各時代の多種の文物を収蔵し、それも皇帝から庶民のものまで網羅しています。中には、処刑された人の墓誌、刑徒塚まであります。

最も古い漢字といわれる甲骨文は、亀の甲や、牛の肩胛骨に刻まれた占いに用いられた殷代の文字です。一八九九年に河南安陽の殷墟から発見されましたが、三千三百年程前のもので、これにより、商という国が殷に都したことが刻された王の名前より、わかりました。同じ頃の青銅器（銅と錫の合金で鑄造した器具）にも、金文という鑄出された文字がありますが、殷代の金文は、文字というより氏族標識で、西周以降には、長文が見られます。

当館の卵形容器は、王墓より出土したもので、まさに青銅器の王であり、世界でこの器形は唯一です。

ケースに入れず直接、仏像に接しられる展示は、鑑る人に感動を与えます。重要文化財の東魏天平二年の弥勒三尊仏のアルカイックスマイルは、私達に暖かさを感じさせます。重



重文 東魏天平二年 弥勒三尊仏

文の天龍山石窟(山西省太原)門口の両脇にあった金剛力士像は、実に力強い像で、我が国へ渡来の最も背の高い作品です。

三千個に及ぶ古印の収集は、当館設立の動機ではありますが、中でも「日庚都萃車馬」は山東省出土で戦国時代の巨大な印として、著名です。今でいえば運輸省長官の印でしょう。

陶磁器では、完全にそろった唐三彩の馬と胡人、魃頭と神将俑、万暦年間の衣服を上から掛けて香をたきしめる赤絵薫炉、皇帝用の極上の粉彩である古月軒の梅花碗は、他では見られない逸品でしょう。

衣裳では、乾隆帝の龍袍は、五爪の九龍文を、極小の真珠と珊瑚で密に縫いつけた豪華なものです。ユニークな一つとして、科挙の時の夾帯衣は、四書五経とその注釈、全七十万字を書き、虫めがねでないと見えない細字です。これはカンニングに用いたと思われ、又、不合格のものなのでしょう。

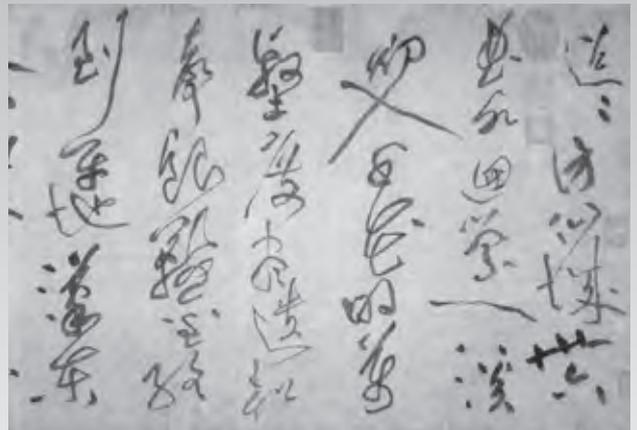
書画は、毎年五月と十一月に、指定文化財の特別公開をいたします。その時に限り、展示予定のものは、次の作品です。

国宝の春秋経伝集解は、春秋経を注釈した唐鈔本ですが、紙背に承暦二年(一〇七八)高野山の僧による書写があり、明治初年に中国に帰り、五十年後、再び渡来したものです。

北宋の書の第一人者の黄庭堅の李白詩巻は彼の草書としては、世界的な名品であります。

絵画では、金の王庭筠の幽竹枯槎図は、唯一の彼の画であり、重要文化財です。

重文の許道寧の秋山蕭寺図は、北宋中期の山水画であり、イタリア人でカステリオーネが原名で、宮廷画家となった郎世寧が描く春郊閱駿図の乾隆帝騎馬像は、教科書にも掲載されています。



李白詩巻 黄庭堅



春郊閱駿図 郎世寧

結びのことは

私達の日本文化を理解するために決して欠くことのできない中国文化の結晶である収藏品は、鑑る人に、血のつながりを再認識させ、そのすぐれた芸術性と迫力は、私達を感動の世界へと招きます。「精神的に豊かな社会づくり」は、ビジョンであり、ニーズでもあります。「人間らしさ」の維持と復活という永遠のテーマに対し、鑑賞者が、何らかのヒントを見出していただきたいと願っています。又、高度な物質文明社会における精神的なひずみを是正し、心のクリーニングとやすらぎのひとつときを与えられる美術館でありたいと思っています。

財団法人 藤井育成会 有鄰館

所在地 〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44番地
TEL (075) 761-0638 FAX (075) 771-0005

交通 地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分、
市バス「東山仁王門」「京都会館美術館前」下車徒歩5分

開館時間 1月・8月を除く
毎月第1・第3日曜日の12:00~15:30 (入館は15:00まで)
※事前申込による臨時開館あり (詳細はお問合せください)

料金 本館 (大人: 1,000円 高校生以下: 800円)
第二館 (大人: 400円 高校生以下: 400円)

※本館・第二館ともに6歳以下は無料

ホームページ <http://www.yurinkan-museum.jp/>



平成21年度 京博連総会を開催

去る6月19日(金)平成21年度京博連総会が、門川大作京都市長等を来賓としてお迎えし、佛教大学宗教文化ミュージアム内宗教文化シアターにて盛大に開催されました。

当日は、樋口隆康会長による開催あいさつの後、門川市長から祝辞をいただきました。続いて永年勤続者への京博連表彰状、市長感謝状及び記念品が、樋口会長と門川市長から手渡されました。

議事では、「20年度事業報告」「21年度事業計画」が提出され、いずれも満場一致で承認されました。

総会終了後には、会場である佛教大学宗教文化ミュージアムの門田誠一館長より、春期特別展に関連し「海を越えた陶磁器と茶の文化～海のシルクロードの出発点“福建”」をテーマに御講演をいただいた後、特別展の見学研修を行いました。

佛教大学宗教文化ミュージアムならびに博物館ふれあいボランティア「虹の会」の御協力のもと、京博連の今後ますますの飛躍に向け、充実した総会となりました。



議事の様子



表彰状贈呈



門田館長講演

栄えある御受賞、お祝い申し上げます



京博連加盟館において、永年にわたり勤務され、博物館施設の充実発展、文化の向上に寄与された方々に京博連表彰を行いました。(50音順)

功労賞 7名

京都市動物園	秋久 成人 様
元離宮二条城	小谷 修 様
近藤悠三記念館	近藤 潤 様
京都市動物園	坂本 英房 様
京都府京都文化博物館	洲鎌佐智子 様
京都国立博物館	山本 英男 様
養源院	吉水 玉 様

奨励賞 2名

京都市学校歴史博物館	竹村 佳子 様
京都府立植物園	広瀬 一也 様

職員研修交流会を実施

8月26日(水)、京都ロイヤルホテル&スパにて、平成21年度京博連職員研修交流会が行われました。研修会では、染川香澄氏(ハンズ・オン プランニング代表)を講師にお招きして、「国内外の博物館、心に響いたコト」をテーマに、国内外の博物館の独創的な取組について御講演いただきました。講演に引き続き、会場では情報交換会が催され、加盟館の職員同士の新たなふれあいが生まれたひと時となりました。



染川香澄氏の講演



会場の様子

平成21年度 京都市博物館連続公開講座

毎年、多くの市民の方に御参加いただいています「京都市博物館連続公開講座」。本年度も加盟館の御協力のもと、10月から5回にわたり、開催いたします。

第1回講座

日 時 10月23日（金）午後2時～4時
場 所 京都當道会会館
（上京区出水通室町東入ル近衛町47-2）
講 師 京都當道会 大木富志 副会長理事（大師範）
テ ー マ 「伝統音楽の継承－京の工芸家との絆－」
募集人数 40名



昨年度講座（京都御苑の見学）

第2回講座

日 時 11月20日（金）午後2時～4時
場 所 立命館大学国際平和ミュージアム
（北区等持院北町56-1）
講 師 立命館大学国際平和ミュージアム 高杉巴彦館長
テ ー マ 「平和な社会とは何？平和を築き上げていく
ために、今、私たちにできることは…」
募集人数 50名



昨年度講座（泉湧寺での講義）

その他、京都府京都文化博物館（第3回）、
京都市動物園（第4回）、京のじゅばん&町家
の美術館 紫織庵（第5回）で順次開催します。

- *参加者は各講座ごとに募集し、受講料は無料です。
- *京都市が毎月発行する広報紙『市民しんぶん』等で参加募集
（平成21年9月号から）。
応募者多数の場合は、抽選とします。
- *主催：京都市内博物館施設連絡協議会／京都市教育委員会

新規加盟会員の紹介

本年度の第1回幹事会（5月開催）、また第3回幹事会（8月開催）において、新たに5会員が加盟されました。

正会員

※50音順

- ◆新島旧邸（上京区寺町通丸太町上る松蔭町）
- ◆箔屋野口（上京区元誓願寺通大宮西入る元妙蓮寺町546）
- ◆水野克比古フォトギャラリー 町家写真館（上京区大宮通元誓願寺下ル石薬師町690）
- ◆ユキ・パリス コレクション（左京区浄土寺南田町14）

賛助会員

- ◆特定非営利活動法人 京都文化協会（下京区中堂寺栗田町93 京都リサーチパーク 6号館419号）

せいしゅうねつけかん
京都 清宗根付館

伊達 淳士

「小さきもの」を愛でる
日本人の美意識を再確認する美術館

わが館を紹介

「京都市指定有形文化財」に指定されているこの屋敷が壬生郷士・神先家の住居として建てられたのは、「化政文化」と呼ばれた江戸文化爛熟期。まさに古典根付の作家たちが優れた作品を創出した黄金期と重なっています。武家文化と京の町家文化が溶け込んだ歴史的な空間の中で、現代に受け継がれた江戸文化の粋をじっくりとご堪能ください。



京都 清宗根付館 外観

「根付」は江戸時代に常備薬を入れた印籠や巾着、煙草入れなどを紐で帯に吊して携帯する際の留め具として発明されたものです。現代でいうならば、さしずめ携帯ストラップでしょうか。実用品でありながら、自分らしさや遊びごころを表現する粋な小物として、象牙、木、鹿の角、陶磁器、金属や漆など、さまざまな素材に驚くべき精緻な細工が360度施されて、掌の中の小さな芸術品として人々に愛されました。現代のミニチュアフィギュアのルーツとも言えそうです。

「小さきもの」を愛でる日本人の美意識が結晶したような根付は、明治以降、海外でも高く評価され、熱狂的なコレクターを生んでいます。洋服が一般化した現代の日本では根付の実用性が薄れ、まとまったコレクションを見る機会もあまりありませんが、[京都 清宗根付館]では、この素晴らしき日本の伝統を現代に伝えるため、京都市に唯一残る武家屋敷に根付約500点に及ぶコレクションを展示しています。



くまざりひびき
草摺引 (曾我五郎)

わが館もの自慢

江戸時代の技を継承し、国内外の作家が今の時代に適合した素材で創作した「現代根付」と江戸期に作られた「古典根付」の逸品を展示しておりますので、時空を超えた伝統美の世界をお楽しみいただけます。

展示期間は2月と7月は1日～14日まで、4月と11月は1日～30日まで。期間限定の開館です。詳しくは公式HPをご覧ください。お電話で確認のうえ、ご来館ください。



1F展示室

- 所在地
〒604-8811
中京区壬生賀陽御所町46番1号 (壬生寺東側)
- TEL (075) 802-7000
- FAX (075) 802-7001
- 交通
市バス26・28・71系統「壬生寺通」下車徒歩2分。JR京都駅からはタクシーで15分。
- 開館期間
春季：4月1日～30日 夏季：7月1日～14日
秋季：11月1日～30日 冬季：2月1日～14日
- 開館時間
10：00～17：00 (入館は16時30分まで)
- 料金
一般1,200円、高・大学生600円 (学生証の提示が必要)
- ホームページ
<http://www.netsukekan.jp/index.html>

近藤悠三記念館

学芸員 原 知子

わが館を紹介

当館は、陶磁器染付の重要無形文化財保持者（人間国宝）、近藤悠三の芸術を広く紹介するために1987年（昭和62）、茶わん坂に開館いたしました。館内では、様々な技法に挑戦をしていた初期の作品から、赤絵や金彩を用いた華やかで重厚な趣きのある晩年の作品まで、約70点を常設展示しております。自然が有する生命の躍動を表現し、陶芸一筋に生きた悠三の芸術世界をご覧くださいと思います。



近藤悠三記念館 外観

わが館ひと自慢

近藤悠三の祖父・近藤正慎は、清水寺の寺侍で、西郷隆盛と月照上人を薩摩へ逃がすために一役買い、牢獄で舌を噛み切り自害した勤王の志士でした。悠三は生前「なんぼ苦勞しようが、義のために舌かんで死んだじいさんのことを思えばへっちゃらや」と語っていました。その気概こそが、「近藤染付」とも呼ばれる雄渾な染付を生み出したと言えるでしょう。そしてその精神は、代を経て今に受け継がれています。



近藤正慎の碑（清水寺境内）

悠三の息子であり、当館館長である近藤潤は、日本工芸会を中心に現在も陶芸家として活躍しています。潤は、美術品として鑑賞されるだけでなく、現代の生活の中で活かされ、暮らしに潤いを与えるような「用」と「美」を追求した作品にも力を注いでいます。また、近藤潤の息子である近藤高弘も、陶芸から出発し、現在では造形美術家として、陶芸という枠を超えたひろい視野で活動を展開しています。表現形態はそれぞれ異なりますが、その時代の中で自らを貫く精神性は、大切にされています。



柘榴染付金彩壺（1980）



富士染付壺（1983）

わが館もの自慢

「梅染付大皿」は当館でもっとも存在感のある作品で、磁器では世界一の大きさです。悠三73歳のときに作られたこの大皿は直径約120cm。200kgの土が使われています。これだけの土を一気にロクロでひくことはできませんので、10～20kgずつ土を増やし、成形だけで約3ヶ月かかったといえます。制作過程や作品についての詳しい解説は、館内のビデオでもご紹介していますので、併せてご覧ください。



梅染付大皿（1975）

また、館入口の販売スペースでは悠三の陶画をもとにして制作した、当館オリジナルの商品や近藤潤監修の器も販売しています。日用づかいとして気軽にお使いいただけることと思います。

●所在地

〒605-0862
東山区清水1丁目287（茶わん坂）

●TEL

(075)561-2917

●FAX

(075)561-2996

●交通

市バス16・206・207系統「五条坂」下車徒歩8分、
京阪電鉄「清水五条」駅下車徒歩15分

●開館時間

10：00～17：00

●休館日

水曜日（祝日、特別展期間中は開館）、
12月28日～31日

●料金

一般500円、高・大学生 400円、
小・中学生300円 ※20名以上は団体割引有

●ホームページ

<http://www.kondo-kyoto.com/yuzo/>

京都當道会会館

社団法人京都當道会副会長 大木 富志

わが館を紹介

今から600年程の昔、中世・近世を通じ、目の不自由な人々の組織「當道職屋敷」が成立しました。すなわち、琵琶法師たちが権利確保のために形成した座が母体となり、江戸時代には幕府の保護のもと強力な自治権が与えられ、組織も大きく整えられ、惣検校（職検校）がその最高責任者として政務を執り、諸国の仕置・技芸試験など職屋敷を通じて全国の目の不自由な人々を統轄・運営していました。

この當道職屋敷に於いては、當道の祖神である天夜尊^{あまよのみこと}をまつり、平曲を語る積塔会^{しやくとうえ}が惣検校以下によって行われ、この際、守護神として日吉山王の画像が掛けられていました。

明治4年、新政府の方針により盲官職廃止令がでたことにより、当時の検校様達が私財を投げ現在の地に再興いたしました。

平成19年、改修を終え、歴史的宝物をいろいろな方法により、広く一般に公開も出来る様に仕掛けを作り、分かりやすく至近距離で見ただけのようになりました。

会員は平素「天夜尊」である人康親王^{さねやす}、惣検校様達のお傍近く、大広間で大合奏などを研修しております。



京都當道会 外観



床の間



体験教室

わが館ひと自慢

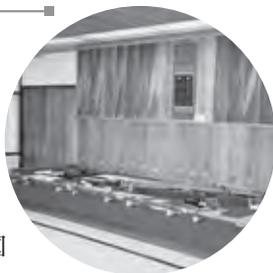
社団法人の会員約1800名のうち、特に近畿圏の人が中心に古典曲の勉強会、下合せを常時しています。

近々では京都府、京都市の事業に多く参加し、広く社会に公開、参加、見学などを承る毎日です。

わが館もの自慢

京都當道会の所蔵品はこの歴史の中で必要な運営品として大切に、しかし、実用として扱われてきました。天台宗山王曼荼羅図2幅はいずれも京都府指定文化財として現在は京都国立博物館に寄託されており、原寸レプリカが一階の床の間に飾られています。

伝・巨勢金岡筆。その他京都を代表する工芸品ともいえる楽器、それにかかわる小物が多くあります。



展示風景



展示風景

- 所在地
〒602-8019
京都市上京区出水通室町東入ル近衛町47-2
- TEL
(075) 441-5640
- 交通
地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車
2番出口より北へ徒歩10分
- 開館時間
通常10:00~16:00 *事前予約制
- 休館日 日曜日、當道会行事日のほか
1月1日~4日 4月29日~5月5日
12月29日~31日
- 料金 大人 300円 (20人以上の団体 200円)
- ホームページ
<http://www.kyoto-todokai.or.jp>

京都芸術センターでの出会い

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
安藤 久実子

以前から私は、美術館などでお見かけする“作品を見守ってイスに座る方”にあこがれていました。そして昨年京都へ引越して間もなく、京都芸術センターのギャラリーをのぞいた時のことです。（ここは元小学校の建物を利用し、現代美術の作家の育成に力を入れておられる所です。）建物の風情、ギャラリーの雰囲気がまことに居心地よく、そして何より“イスに座る方”が親しみやすく、思わず声をかけてしまいました。「こういうお仕事っていいですね。」と。するとその方は、これはボランティアであること、そして私にもできることを話してくださいました。

この出会いがきっかけで、私は博物館ボランティアの六期生となりました。印象に残ったのは、ボランティアの方のオープン・マインドな対応です。芸術センターの開かれた雰囲気とともに、とっても嬉しい出来事でした。今自分が“イスに座る人”になり、その方のことを考えます。もしかしたら建物や作品とともに、心に残るのは、“人”かもしれない、と。『来館者の方の鑑賞のじゃまをせず、しかもオープンな気持ちでいること。』芸術センターでの出会いから私が学んだ、大切なボランティアの指針です。



芸術センターぐるり

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
御石 芳枝

室町蛸薬師一京都市のど真ん中に60年前の小学校の外観をとどめた建物があります。

明治2年に京の町衆の力で創立した明倫小学校が閉校した後、2000年4月、芸術家の育成と芸術発信、地域の交流の場として設立された京都芸術センターです。

門を入ると二宮金次郎の像を横目に西館、南館、北館と続き、小さな運動場があります。西館では演奏会、演劇、落語会などが行われ、明倫茶会、明倫ワークショップといった参加型のイベントもあります。12の教室はアーティストが製作室として使っています。

北館、南館にはそれぞれ真白い内装のギャラリーがあり、内外の芸術家が斬新なアートで自由な表現をする空間になっています。

談話室や図書室、カフェは古い校舎の面影がそのまま残り、まるで半世紀前にタイムスリップした様です。

運動場では地域の人がゲートボールを楽しみ、隅のベンチでは読書をする人、座っている人・・気ままに時間を楽しんでいます。

そんな空間が街中にあるなんて驚きでしょう。居心地満点です。



角屋もてなしの文化美術館

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
森 純子

この春から、博物館ふれあいボランティアをさせていただいています。

角屋もてなしの文化美術館は、説明会があるまで、遺構が美術館になっていることを知りませんでした。重要文化財の美術館ということに、大変、興味を覚え、早速応募いたしました。

角屋は、江戸期の饗宴・もてなしの文化の場である揚屋建築の唯一の遺構です。揚屋というのは、現在の料理屋・料亭にあたるもので、大座敷に面した広庭に必ずお茶席を配するとともに、寺院の庫裏と同規模の台所を備えていることを、重要な特徴としています。

新撰組の芹沢鴨が、最後の宴会をしたという座敷や、刀傷の残る柱、部屋ごとくに趣向を変えた、天井・欄間・障子等々、そこにいるだけで、歴史の重みと、先人たちの技術の粋を感じることができます。

少しわかりにくい場所にあります。その分、江戸時代にタイムスリップしたような気分を存分に味わうことができます。





おお こう ち さん ぞう
大河内山莊



京都嵯峨野にある「大河内山莊」は、時代劇俳優大河内傳次郎（1898～1962）により造られた小倉山の山腹にある広大な借景庭園です。大河内がこの地に造園を始めたのは昭和六年の頃で、当時、現在の大河内山莊の山門の前面に広がる竹林の中に、時代劇の撮影の為、よく訪れ、昼時の休みには、いつも竹林を少し登った京の街が見渡せる所の大きな岩の上で弁当を広げたと聞きました。その場所は現在の山莊の南西の一角にある阿弥陀堂の辺りだったようです。大河内はこの見晴しの良い山地を大変気に入り、庭造りが始まります。大河内傳次郎（本名 おおべ まさお 大邊 男）は福岡県築上郡岩屋村大河内（現在の豊前市）で田舎医者のおおべ 家の末っ子として生まれ、若くして大阪や東京に働きに出され、車引きや明治屋等で働く事となりますが、作家を夢んでいた大河内は大正14年（1925）、大阪にあった倉橋仙太郎の俳優養成所（第二新国劇）の文芸部に入り、脚本を書くこととなりました。その時のペンネームは何んさいほうみだろくと、西方弥陀六、仏教に傾倒していた大河内らしい名前を付けていました。その後、倉橋夫人に薦められて、室町次郎の芸名で第二新国劇の舞台に立つ事となりますが、本家新国劇の盟主、沢田正二郎が突然の病に倒れ、代役としての活躍が認められ、芸名も大河内傳次郎と改め、舞台俳優から映画俳優へと活躍の場が広がります。そして伊藤大輔監督との出会い等があり、大人気俳優として一世を風靡することとなりますが、多忙な映画俳優としての生活の傍ら、庭造りにも没頭します。まず最初に山腹に小さな阿弥陀堂を建て、創造の日々が始まります。休日には現在の東映映画村付近にあった自宅より、弁当持参でその阿弥陀堂へ出かけ、お念仏を上げる日々が続いたそうです。それから三



大河内山莊の秋

十有余年、現在の庭園大河内山莊は完成しますが、小倉山の南西を背に嵐山げんろくやま元禄山を借景とし、遠くに東山三十六峰を望み見る時、多くの人々は、その大自然の雄大さに驚き、畏敬の念と共に宇宙をも感じ、自分の存在の小ささを知り、生かされている有難さをも体感すると云われています。大河内は若い時に関東大震災（1933）に遭遇し、人の世の儚さを知り、又第二次世界大戦では、有名俳優ゆえ軍の宣伝、広報にも利用され、外地の戦地へ、撮影や慰問のために出向きますが、その地で出会った多くの友人や知人の息子達が日本に帰る事もなく、現地の土となった事に大きな衝撃を受けた事が、戦後の造園に大きな影響をもたらします。今まで何年もかけ完成したと思われた庭園を又二年も三年もかけて元に戻し、晩年は何かに急かされるように自らが毎日庭師と共に夕暮れまで働き、庭園を完成させました。大河内の庭、それは戦争犠牲者や亡くなった友人達や自身の両親の為の鎮魂の庭でもあったのです。どんな庭もそれぞれの人の心で自由に見て感じて楽しむものと思いますが、大河内の創造した庭から、あなたはどうか感じ取って頂けますでしょうか。

発行 平成21年9月

編集・発行者 京都市内博物館施設連絡協議会事務局（京都市教育委員会生涯学習部内）

所在地 〒604-8064 京都市中京区富小路通六角下る 元生祥小学校内 TEL：075-251-0410 FAX：075-213-4650

ホームページ http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-17-1-0-0_5.html